

リスザル (*Saimiria sciureus*) の腹腔より発見された *Dipetalonema gracile* (RUD., 1809) DIESING, 1861 について

早崎峯夫\* 大石 勇\* 久米清治\*

(昭和 47 年 5 月 19 日受付)

*Dipetalonema gracile* (RUD., 1809) DIESING, 1861 Detected from the Peritoneal Cavity of *Saimiria sciureus*

MINEO HAYASAKI, I. OHISHI and S. KUME

(Veterinary School, Tokyo University of Agriculture and Technology, Fuchu, Tokyo 183)

SUMMARY

Seven worms (5 female and 2 male) of *Dipetalonema gracile* (RUD., 1909) DIESING, 1861 were detected from the abdominal cavity of the monkey, *Saimiria sciureus*.

They presented the morphology characteristic of the species already reported.

緒 言

糸状虫は主として熱帯、亜熱帯、温帯地方の世界各地に分布し、哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類などの幅広い宿主をもつ寄生虫で哺乳類からは 41 属、234 種が知られている<sup>5)</sup>。このうちサルには *Dipetalonema*, *Dirofilaria*, *Brugia* の属から 29 種類の報告がある。著者らは、このたびサルの腹腔内から検出された糸状の線虫を形態学的に検討した結果 *Dipetalonema gracile* (RUD., 1809) DIESING, 1861 と同定したので報告する

検出虫体

ブラジル産のリスザル (*Saimiria sciureus*) の腹腔から

表 1 *Dipetalonema gracile* と同定された虫体の計測値

	♀ (5 匹)	♂ (2 匹)
体 長 (cm)	16.6 (18.0~15.0)	8.7 (9.0~8.5)
体 幅 (μ)	417.4 (475.0~385.5)	334.1 (2 匹とも)
頭 端 幅 (μ)	118.1 (130.0~102.8)	106.0 (109.2~102.8)
頭端より神経輪 (μ)	583.4 (822.4~260.2)	467.4 (539.7~395.1)
食 道 (μ)	3,813.9 (4,536.1~2,929.8)	3,675.1 (3,790.8~3,559.5)
頭端より陰門 (μ)	871.8 (1,259.3~440.0)	
尾端より肛門 (μ)	804.6 (1,085.0~594.3)	311.6 (1 匹のみ)
左交接刺 (μ)		995.9 ( " )
右交接刺 (μ)		244.2 ( " )
左右交接刺比		4.0 : 1 ( " )

検出された糸状の細長い虫体で、雌 5 匹、雄 2 匹計 7 匹である。

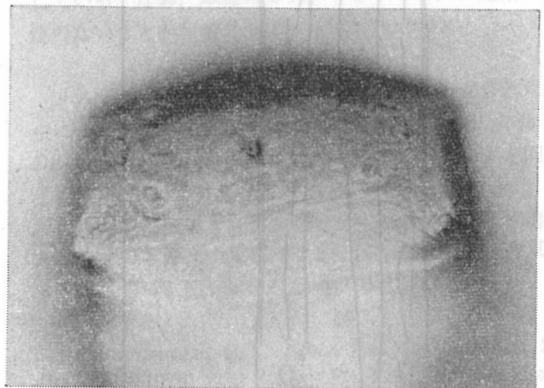


写真 1 頭端の肩章様構造。各隅角に 1 個ずつと口の左右に 3 個ずつの乳頭と中央部の口を示す。

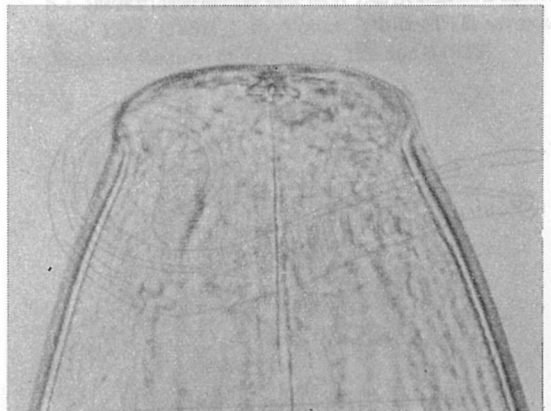


写真 2 頭端側面。口と食道の一部を示す。

\* 東京農工大学農学部 (東京都府中市幸町3-5-8)

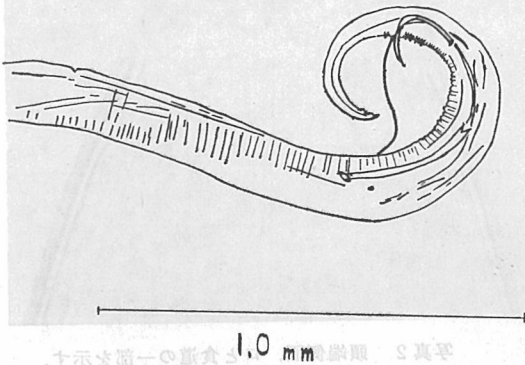
虫体の形態

虫体の各部計測値は表1のごとくである。平均体長雌 16.6 cm, 雄 8.7 cm, 平均体幅雌 417.4 $\mu$ , 雄 334.1 $\mu$ の糸状の虫体である。頭端は背腹に短かく、左右に長い長方形で、クチクラからなら平らな肩章様構造をなし、その表面には各隅角に1個ずつ4個および口の左右に3個

図1 前端部。食道と陰門を示す



図2 雄の尾部。左右交接刺、前後肛門乳頭、肛門を示す。



ずつ6個計 10 個の乳頭を認める(写真1)。口は単純で口腔はない(写真2)。食道は単純で細長く平均長は雌 3.8 mm, 雄 3.7 mm である。陰門は食道の上約 1/4 に開口する。頸翼、頸部乳頭はみられない(図1)。尾部は尾翼なく腹面に弯曲する。尾端に一对の円錐形の乳頭を有し雌では明瞭であるが(写真3)雄では顕著でない。雄の左右交接刺は、不同非相似で左交接刺は細長く、右交接刺は太く短い。前肛門乳頭 4 対, 後肛門乳頭を 1 対みとめる(図2)。雌の子宮内には無軸のマイクロフィラリアを蔵する。体表クチクラの表面には longitudinal ridge を認める(写真4)。

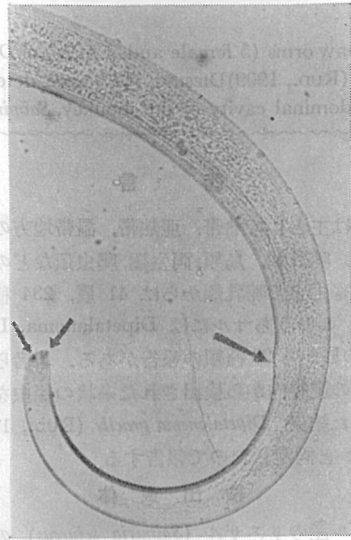
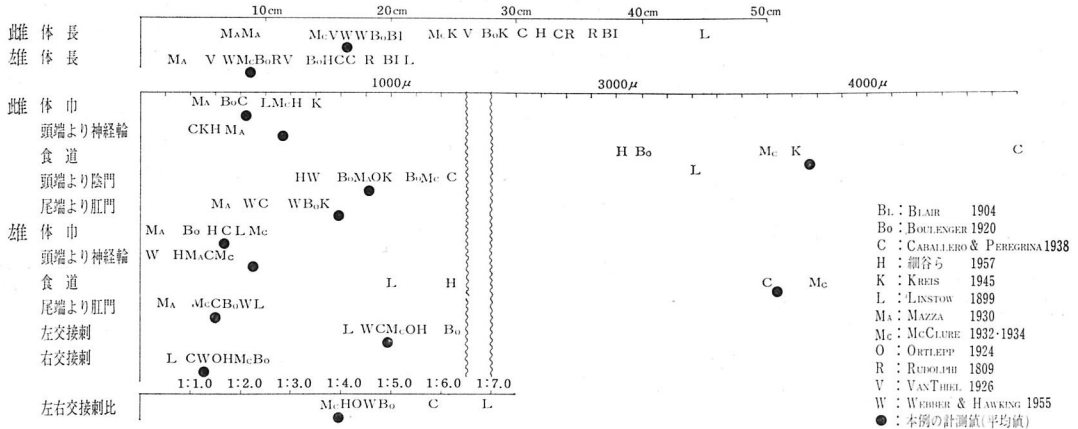


写真3 雌の尾部。一对の尾端乳頭と肛門を示す。



写真4 体表クチクラ表面にみられた longitudinal ridge を示す。

表2 既報の *Dipetalonema gracile* 計測値との比較 (模式図) 該当計測値の個所 (最短と最長) に報告者の頭文字を示す



考 察

霊長類に寄生する糸状虫は *Dipetalonema* 属 14 種, *Dirofilaria* 属 12 種, *Brugia* 属 3 種であるが, これらのうち腹腔に寄生する種はいずれも *Dipetalonema* 属であり, 他の 2 属の種はいずれも心, リンパ管, あるいは結合織に寄生する<sup>5)</sup>. 今回リスザルから検出した虫体は, 腹腔から検出され, 虫体各部の計測値を既報<sup>1,3,4,6)</sup>の *Dipetalonema gracile* の計測値と比較すると表2のごとくで神経輪を除けばいずれも既報の範囲内にある. また頭端, 尾端, 交刺刺などの形態学的特徴も既報<sup>1-6)</sup>の *Dipetalonema gracile* と一致することから, 今回検査のものは *Dipetalonema gracile* と同定した.

ただし頭部乳頭とマイクロフィラリアについては既報の中には本例と一致するものと, そうでないものがあった. すなわち頭部乳頭は本例では 10 個であり, CABALLERO et al.(1938)<sup>4)</sup>も同様10個を報告しているが MAPLESTONE et al. (1926)<sup>6)</sup>, BOULENGER(1920)<sup>1)</sup>は6個を記載している. また, 本例のマイクロフィラリアは無鞘であり, CABALLERO et al. (1939)<sup>4)</sup>, WEBBER (1954)<sup>4)</sup>,

MAPLESTONE et la. (1926)<sup>6)</sup> も無鞘を記載しているが VAN THIEL (1926)<sup>4)</sup>, MCCOY (1936)<sup>4)</sup>らは有鞘を報告している. なお, 本種のマイクロフィラリアには定期出現性のないことが報告されている<sup>4)</sup>.

要 約

リスザル (*Saimiria sciureus*) の腹腔より検出された線虫について形態学的検討を行なった結果, 検出虫体を *Dipetalonema gracile* (RUD., 1809) DIESING, 1861 と同定した.

本線虫を提供下さいました別府市久米義一氏に感謝いたします. 本論文の要旨は第 31 回日本寄生虫学会東日本大会と第 73 回日本獣医学会に報告した.

文 献

- 1) BOULENGER, C. L. : *Proc. Zool. Soc.*, London, 34, 491~505 (1920).
- 2) CRISP, E. : *Proc. Zool. Soc.*, London, 2, 16~17 (1864).
- 3) 細谷英夫, ほか : 日獣会誌, 10, 435~436 (1957).
- 4) WEBBER, W. Z. F. : *Ann. Trop. Med. Parasit.* 49, 123~141 (1955).
- 5) YAMAGUCHI, S. : *Systema Helminthum Vol. III The Nematodes Vertebrates* New York (1961).
- 6) YORKE, W. & MAPLESTONE, P. : *Nematode Parasites of Vertebrates*, London (1926).